

R8 年度夏季研修 B 特別支援教育基礎研修 「困った子でなく困っている子」

令和8年7月22日(水)、本校のLS、Coの先生方によって特別支援教育の基礎的な理解と実践力の向上を目的として研修が行われました。八尾市教育センター主催の研修と合同で行われ、オンライン受講の方も含め119名の方が受講されました。①支援教育の基礎的な知識について②支援学校での実践について③事例についてのグループワークという流れで研修を行いました。

支援教育の基礎的な知識について

●発達障がいの捉え方・・・人は得意不得意・発達の偏りがあります。その偏りが環境の中で大きくなって生活に困難が生じると**発達障がい**と診断されることがあります。

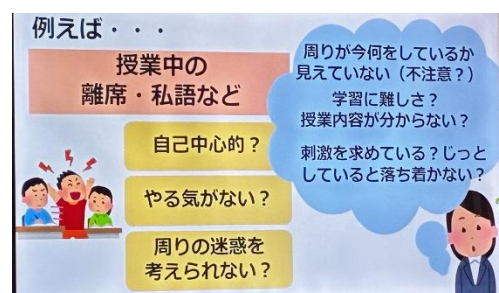
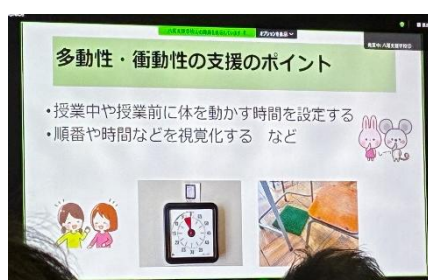
誰もが得意不得意がある・・・が、発達障がいとは**脳機能の障がい**であり、『努力すればいい』『頑張りが足りない』というわけではありません。

●ADHD(注意欠如・多動症)、ASD(自閉スペクトラム症)、LD(学習障がい)、知的障がいそれぞれの特性に対応した支援のポイント、支援グッズなども写真付きで紹介していただきました。

支援学校での実践について、グループワーク

八尾支援学校に在籍する特性からの問題行動がある児童・生徒や対人関係に困難がある児童生徒に対して実際にどのような支援の工夫をしたのか、その結果どうなったのかについて実践発表がありました。近くの先生方と「自分ならこういう児童生徒に対してどうするのか」話し合う時間も設けられ、さまざまな意見が飛び交っていました。

グループワークでは、1つの事例についてその児童生徒の困り感や本児に対してどのような指導ができるのかを「個別の支援・指導」「児童生徒全体に対する支援・指導」の2点から考えました。さまざまな校種の先生方がそれぞれの学校や園での取り組みを発表しました。



まとめ

その児童生徒自身をよく知ることが大切！！

発達障がいの特性についての知識・理解は大切であるがASDやADHDという同じ診断名であっても支援方法は全然違う。児童生徒の実態把握をし、それぞれに合った支援・指導をすること。

児童生徒にとって教師は環境の一つであること。

授業だけでなく、日々の児童生徒の様子をよく観察し、遊びの中でも「できた」「わかった」があると自信や成長につながる。

・児童生徒の課題行動だけに目を向けるのではなく、なぜこの子はこの行動を取るのか、どういう困り感があるのか、困り感をなくすにはどう支援していくのが良いのかを考えて、児童生徒にとって必要な支援・指導をしていけたらいいなと感じました。